

大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

(令和8年3月改訂版)

目次

はじめに	…	2頁
------	---	----

1. 大東市の現状

1-1. 人口の推移	…	4頁
1-2. 人口の構成	…	5頁
1-3. 外国人人口	…	7頁
1-4. 自然動態	…	8頁
1-5. 出生数と死亡数の変化	…	9頁
1-6. 出生の状況	…	10頁
1-7. 未婚率	…	11頁
1-8. 社会動態	…	12頁
1-9. 転入者の年齢階級別推移	…	14頁
1-10. 転出者の年齢階級別推移	…	15頁
1-11. 転入者・転出者の住所地	…	16頁

2. 人口ビジョン

2-1. データ分析から見える大東の特徴と課題	…	18頁
2-2. 日本の将来推計人口	…	19頁
2-2. めざす将来の方向性	…	20頁
2-3. 人口ビジョン	…	21頁

はじめに

◆大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂にあたって

平成26年12月27日、国において「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が策定されました。

これは、我が国が直面する地方創生・人口減少克服という構造的課題に、国と地方が総力を挙げて取り組む上での指針となるものとして示されています。

これを受け、本市では平成27年9月30日に「大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（以下「人口ビジョン」という。）を策定し、人口動向・将来人口推計の分析や中長期の将来展望を示しました。

策定から10年が経過しましたが、この間、本市の人口は12万人を割り込み、減少傾向が続いています。また、従来からの社会減に加えて、近年は出生数の減少による自然減も将来にわたる懸案となっています。

こうした中、令和3年3月、本市は「第5次大東市総合計画」（以下「総合計画」という。）を策定し、令和8年3月には総合計画後期計画を策定しました。総合計画では、人口とまちづくりの考え方として、「一人ひとりの幸せの実現」を掲げ、一人ひとりの幸せの実現が、社会増・自然増につながり、そのことがまち全体の人口構成バランスを適正に保ち、持続可能なまちを生み出す、という好循環をイメージしています。さらには、定住人口だけでなく、関係人口や交流人口という新たな人口の観点も取り入れ、まちの担い手として呼び込んでいくこととしています。その上で、「これからも大東に住む人・大東に関わる人を一人でも増やしていく」ことを謳っています。

また、同年、総合計画後期計画と一体的に、「第3期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定しました。総合戦略は、総合計画に示す理念に基づき、「まち」「ひと」「しごと」の分野で重点的に取り組む具体的な施策を定めており、これらの取組みにより、「一人ひとりの幸せの実現」を具現化していくことをめざしたものです。

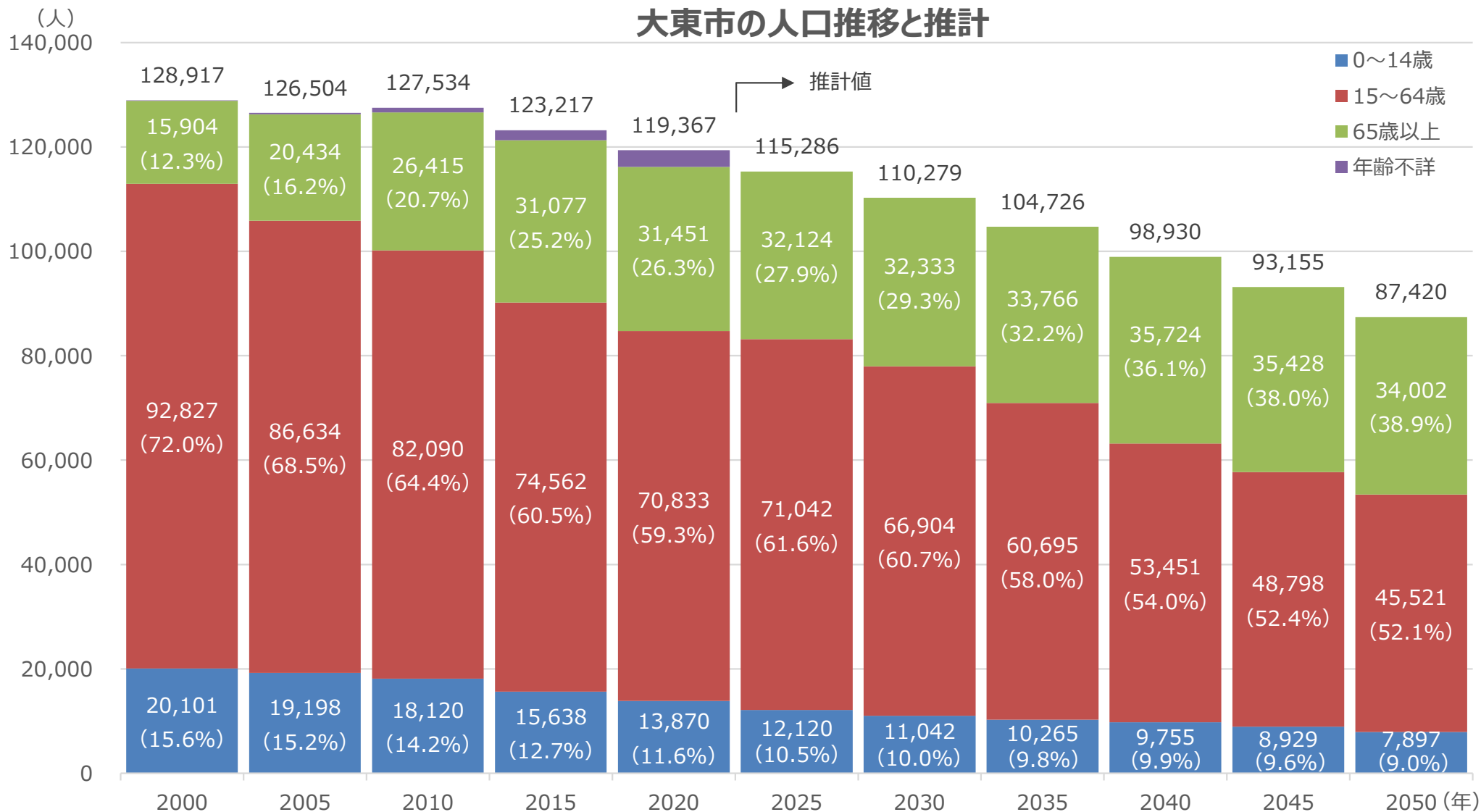
人口減少の対策は、一朝一夕に成果が出るものではありません。今すぐに成果は出ずとも、歩みを止めることなく、引き続き緊張感をもって人口減少対策を講じていくことが肝要です。

総合計画・総合戦略と連携した人口ビジョンをここに改訂し、持続可能な大東のまちを確かなものとしていきます。

1. 大東市の現状

1-1. 人口の推移

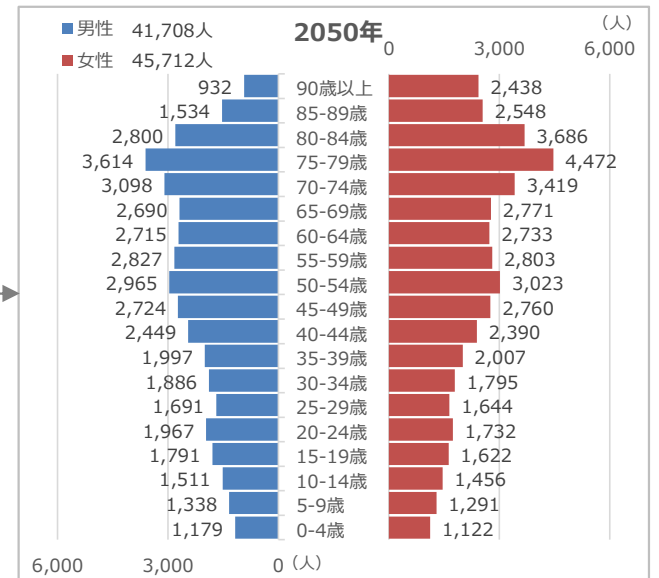
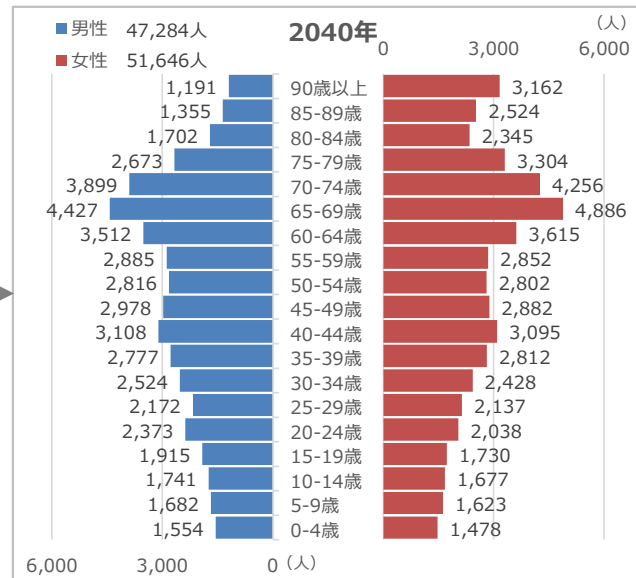
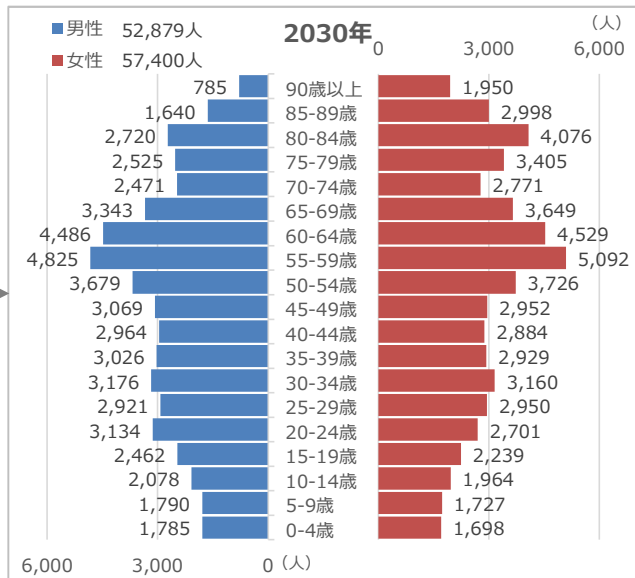
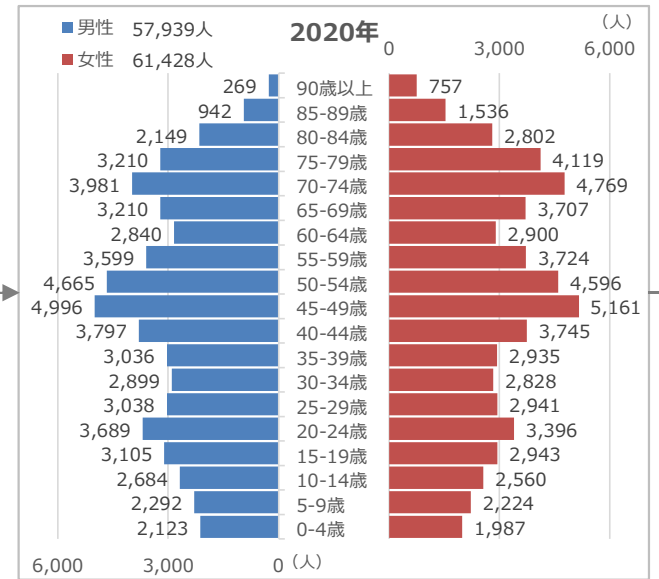
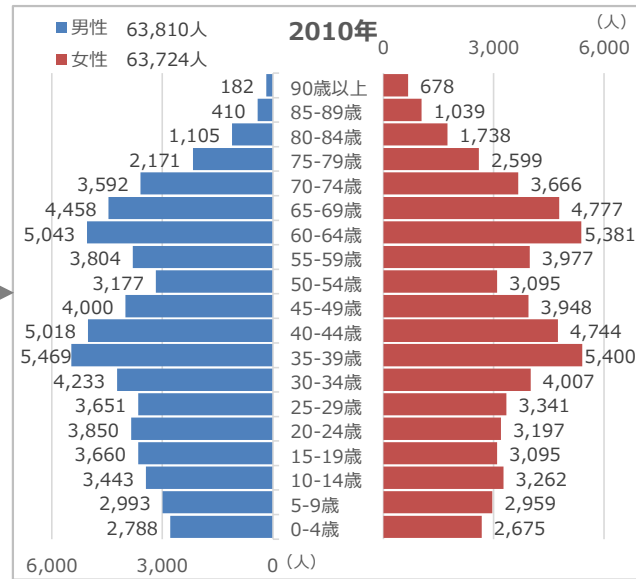
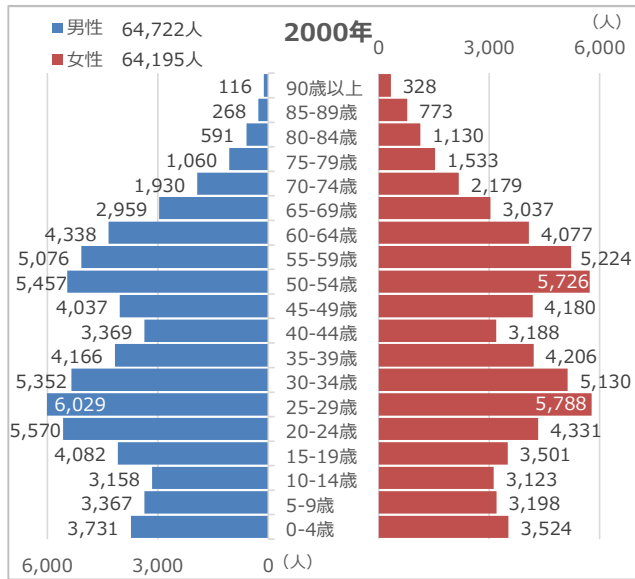
- 大東市の人口は、2000年をピークに2010年から減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）によると2020年から2050年までの30年間で約3万2千人減少（約27%減）すると推計されている。



出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

1-2. 人口の構成

- 人口構成を人口ピラミッドで確認すると、人口規模だけでなく構成も大きく変化することがわかる。
- 特に子ども世代だけでなく働く世代の人口規模も小さくなる。



※2020年までは実数値、2030年以降は推計値

出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

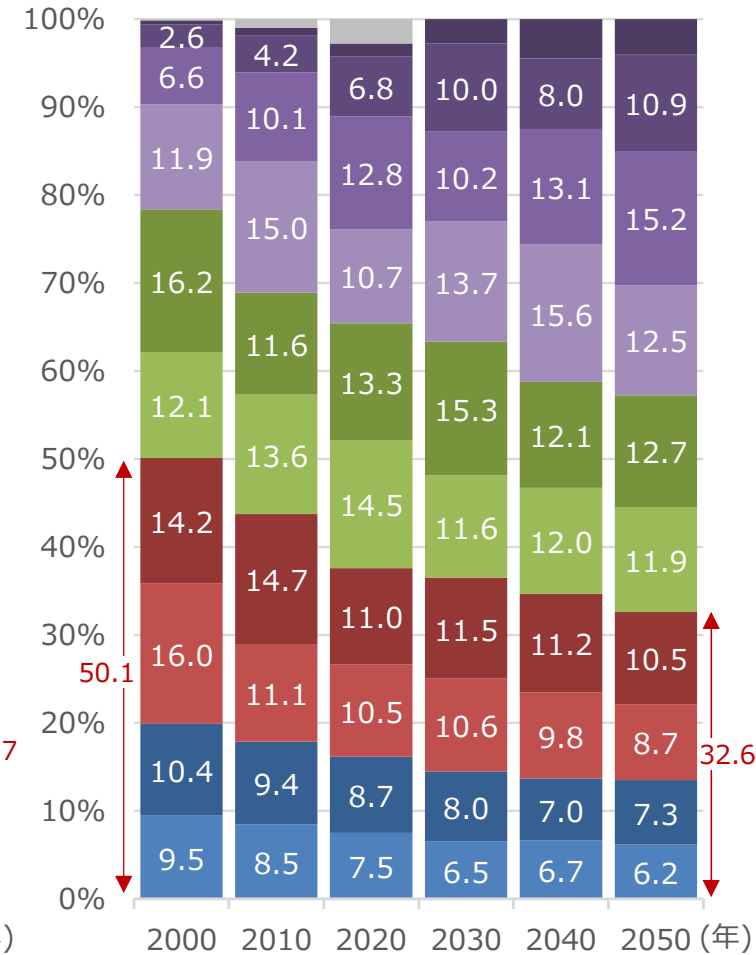
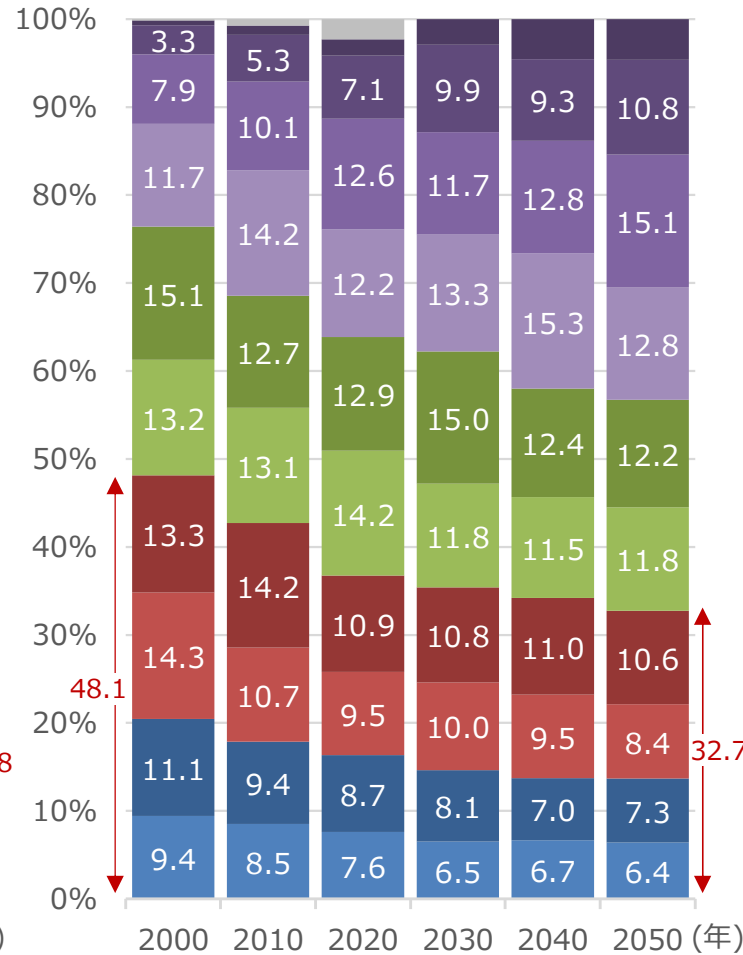
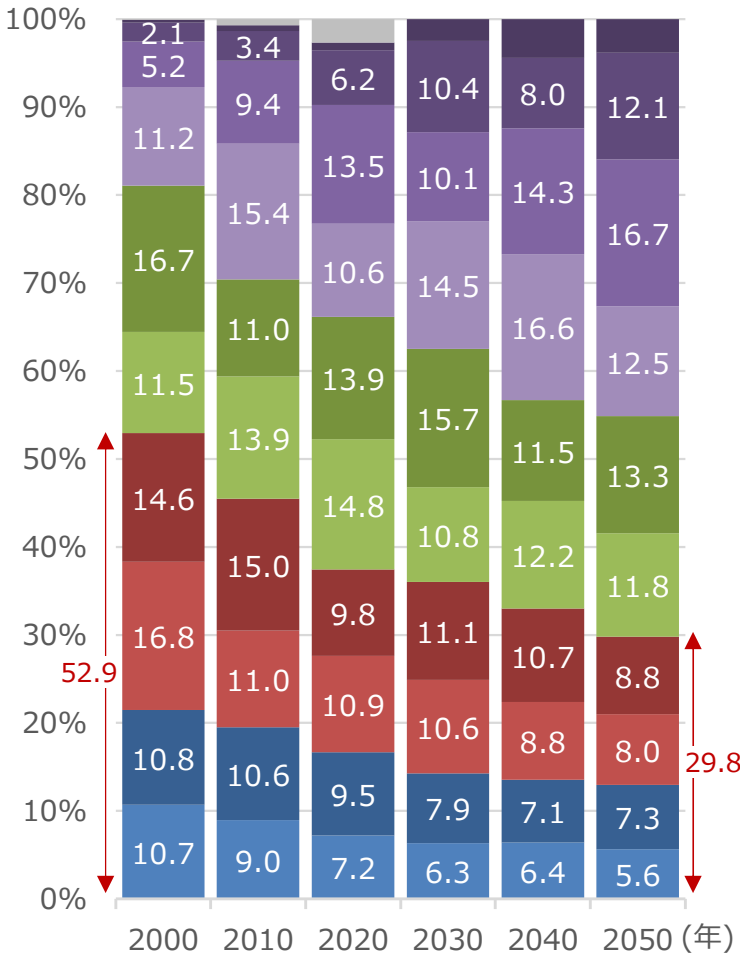
1-2. 人口の構成

- 大東市における39歳以下の割合は、全国や大阪府と比べて2000年時点では上回っていたが、2050年には下回ると推計される。
- 特に0～9歳と30～39歳の割合が低くなり、70歳以上の割合は高くなると推計される。

年齢階級別人口構成：大東市

年齢階級別人口構成：全国

年齢階級別人口構成：大阪府



0～9歳 10～19歳 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60～69歳 70～79歳 80～89歳 90歳以上 年齢不詳

0～9歳 10～19歳 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60～69歳 70～79歳 80～89歳 90歳以上 年齢不詳

0～9歳 10～19歳 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60～69歳 70～79歳 80～89歳 90歳以上 年齢不詳

※2020年までは実数値、2030年以降は推計値

出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

1-3. 外国人人口

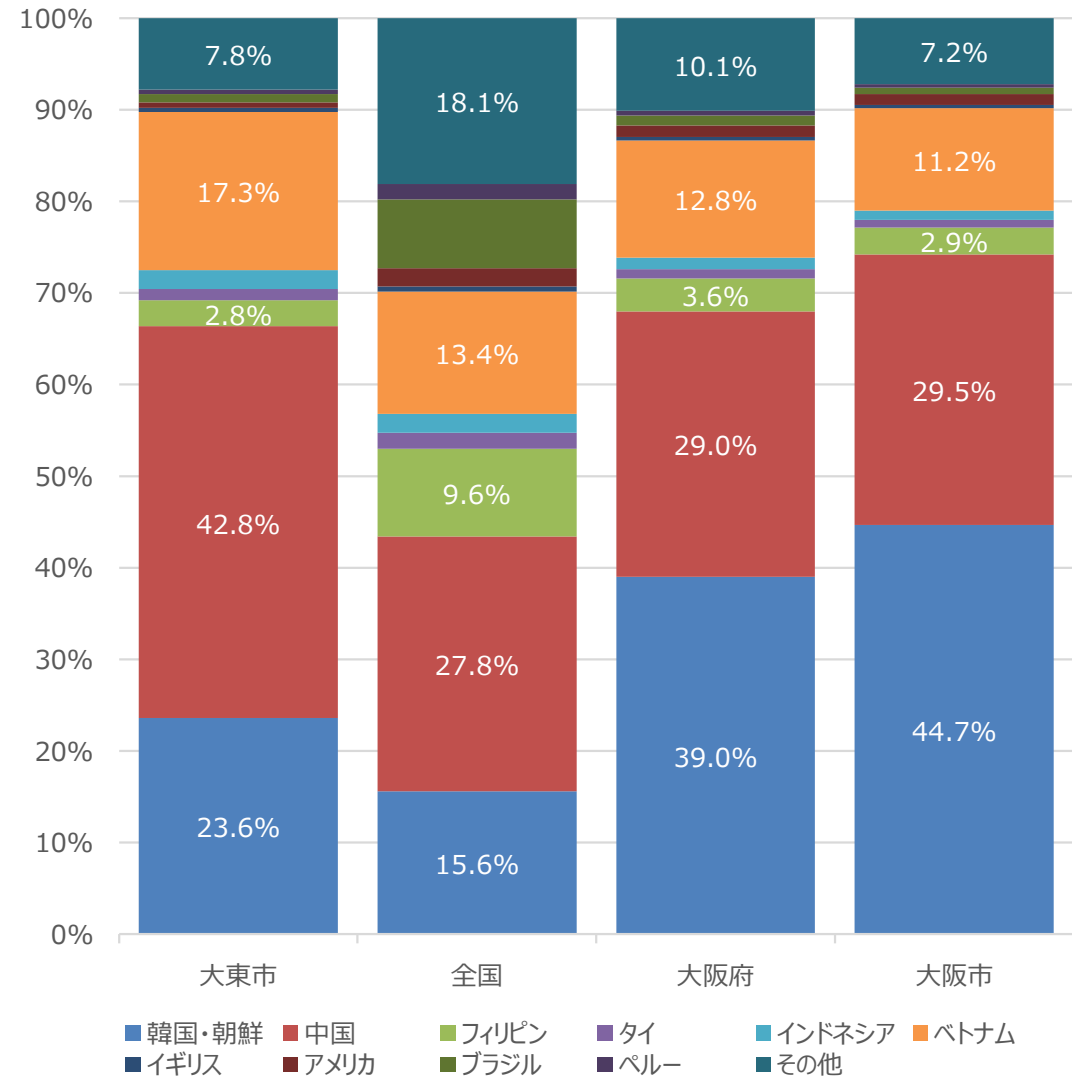
- 外国人人口は増加傾向にあり、国籍別では韓国・朝鮮国籍人口は減少傾向、ベトナム国籍人口が増加傾向となっている。
- 2020年国勢調査における大東市外国人住民の国籍は、中国・韓国・ベトナムの順で多くなっている。

外国人住民の国籍

単位：人

国籍	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
総数	1,784	2,132	2,266	2,185	2,528
韓国・朝鮮	1,178	962	796	721	596
中国	469	832	1,067	1,089	1,081
フィリピン	35	43	70	53	72
タイ	2	9	19	14	31
インドネシア		2	2	8	52
ベトナム		40	69	141	437
イギリス	8	8	6	7	11
アメリカ	10	13	18	16	15
ブラジル	16	29	28	15	23
ペルー	11	6	7	8	13
その他	55	188	184	113	197

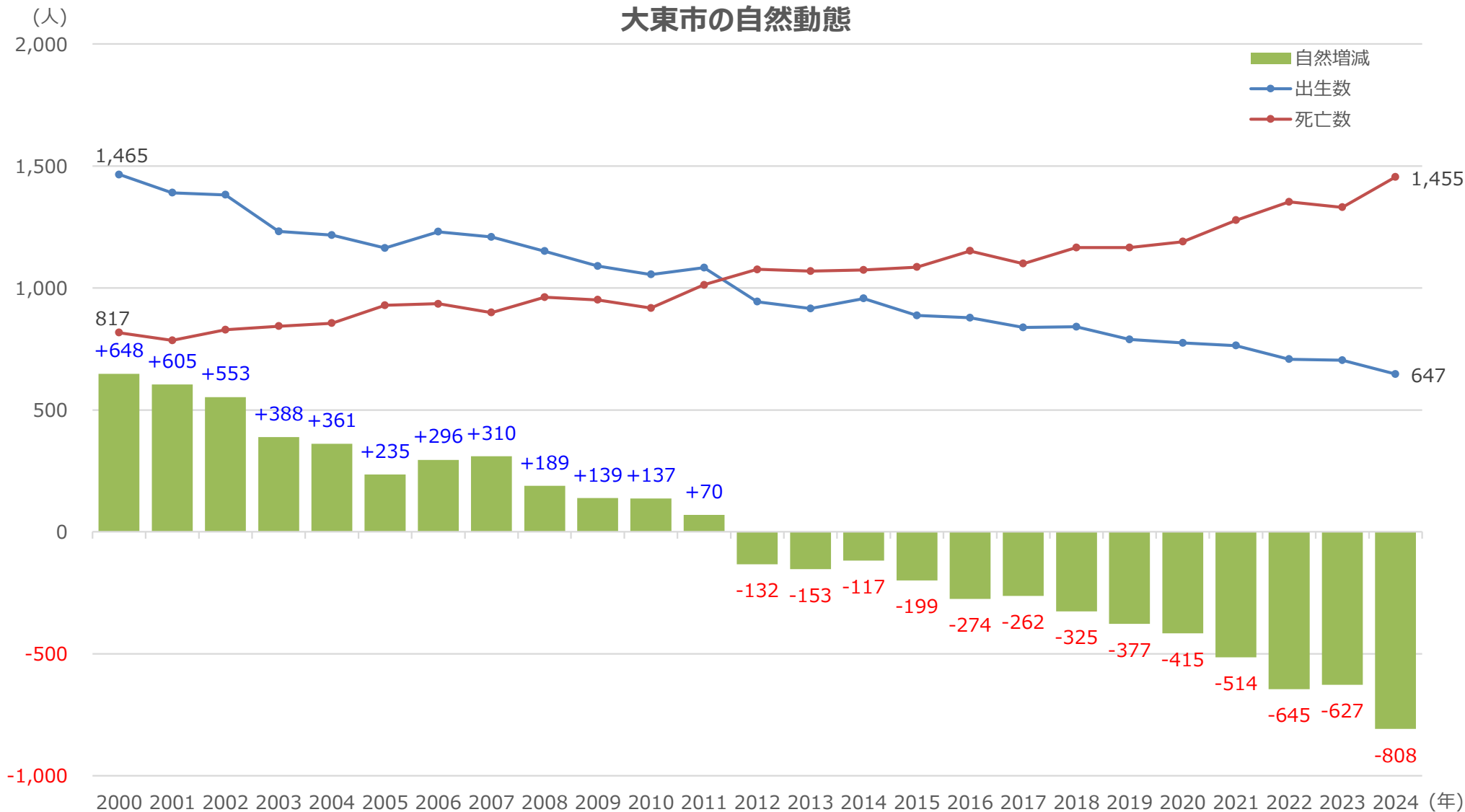
国籍別外国人人口割合：2020年



1-4. 自然動態

- 出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向が続いており、2012年に死亡数が出生数を上回ったことで自然減に転じている。
- 自然減は年々拡大を続けており、人口減少の大きな要因となっている。

大東市の自然動態

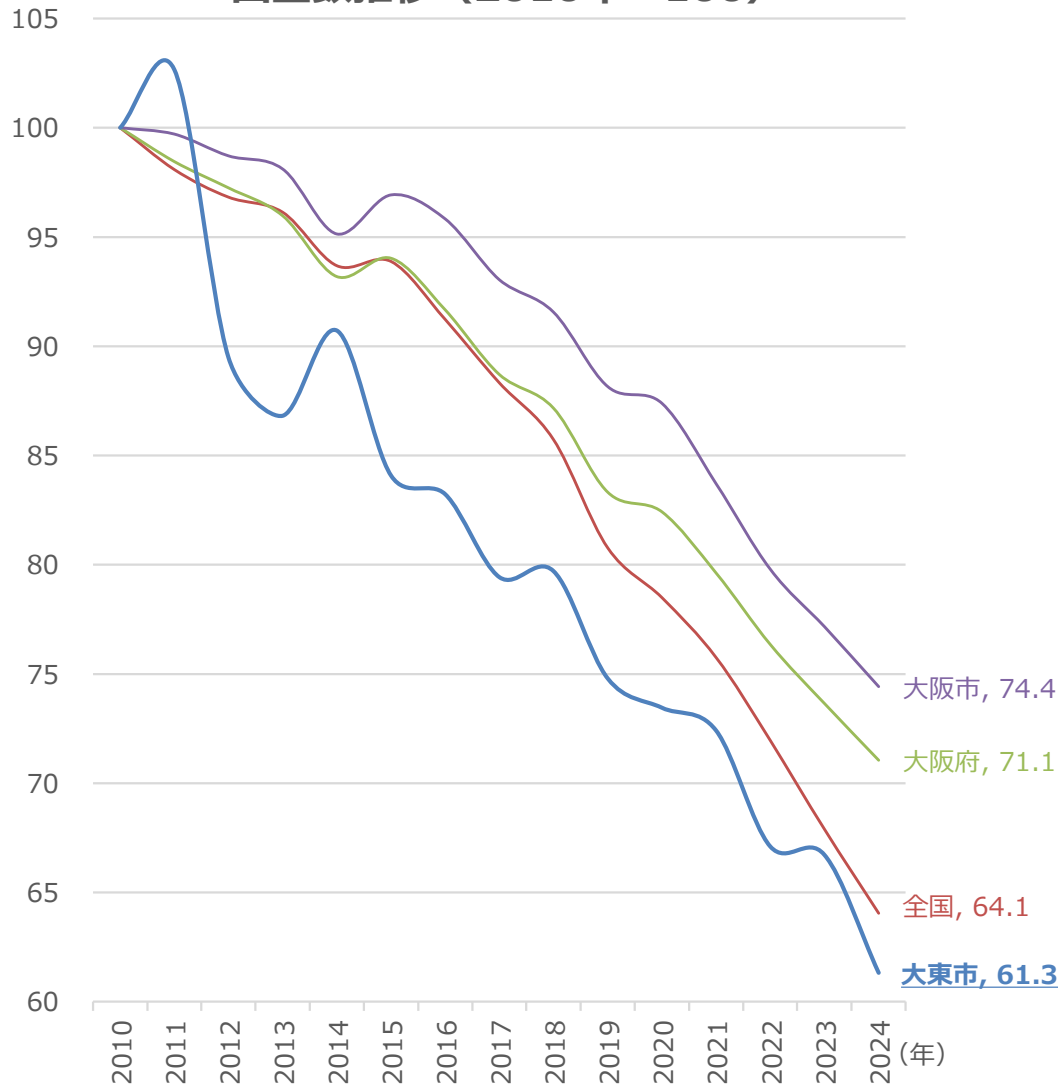


出所：厚生労働省「人口動態調査」より作成

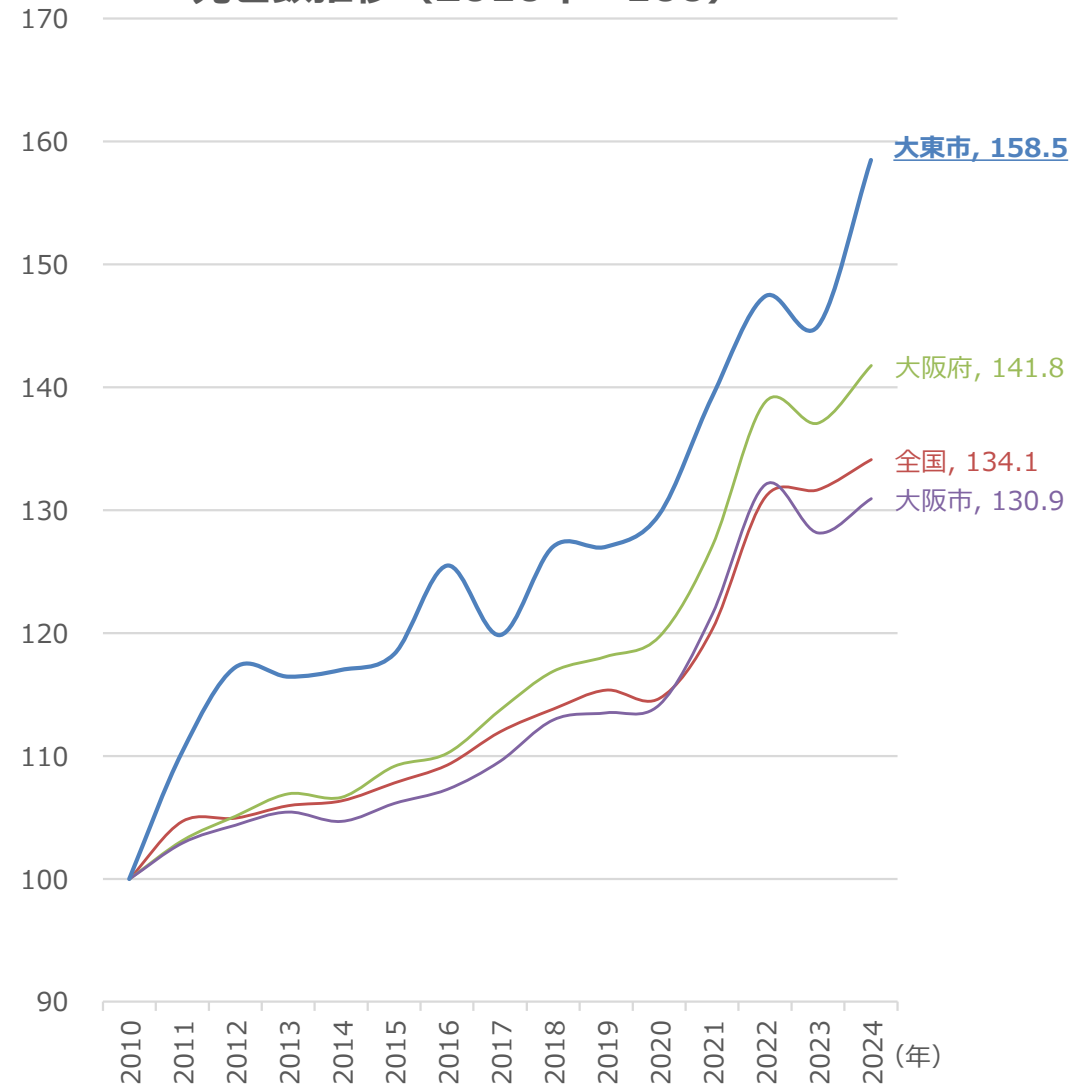
1-5. 出生数と死亡数の変化

- 出生数の推移において、全国・大阪府と比較して出生数の減少幅は大きくなっている。
- 死亡数の推移において、全国・大阪府と比較しても増加幅は大きい傾向がある。

出生数推移（2010年 = 100）



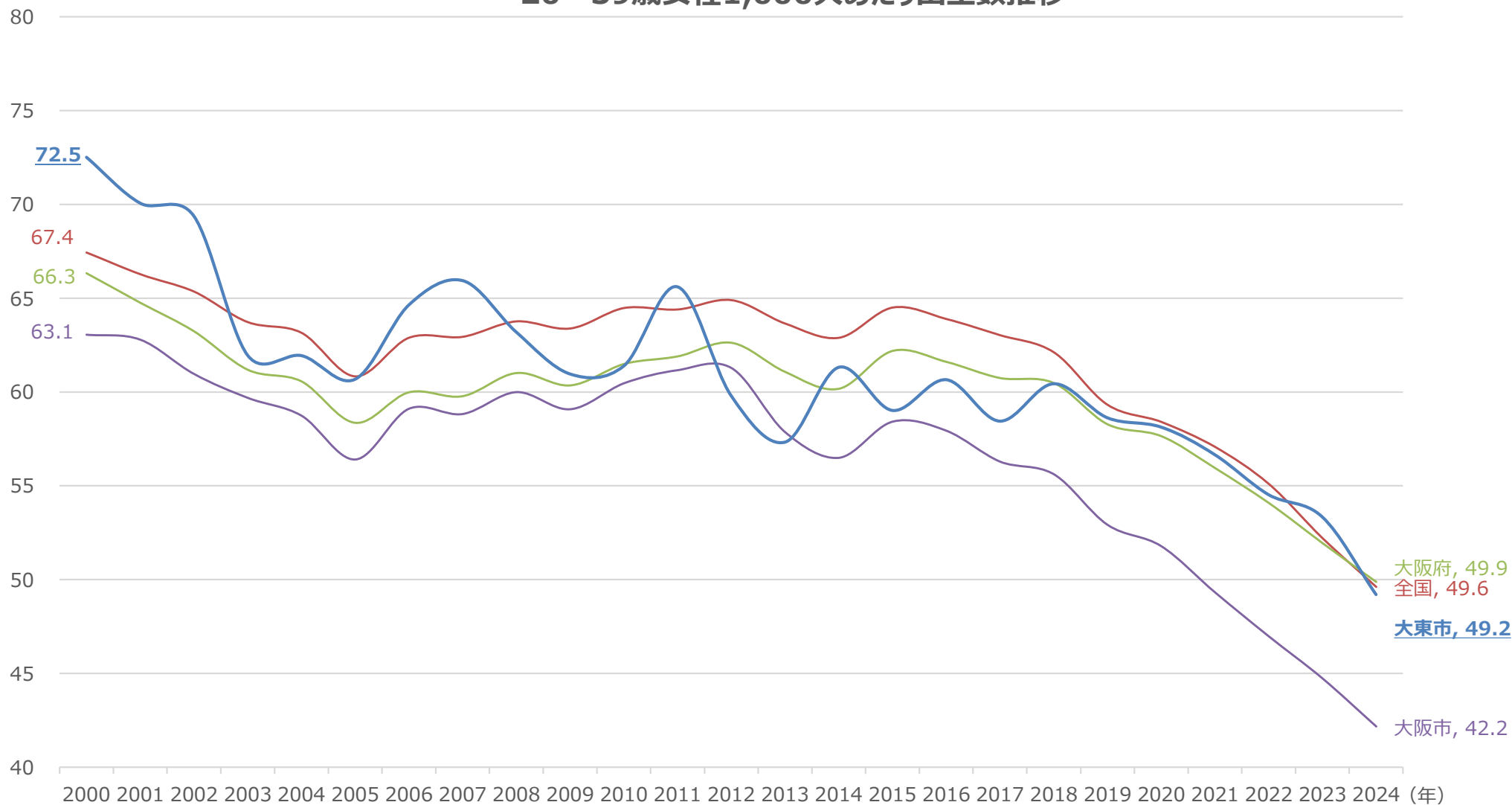
死亡数推移（2010年 = 100）



1-6. 出生の状況

- 20～39歳女性1,000人あたり出生数は、2000年は全国・大阪府と比較して高い水準であったが、2024年には全国・大阪府を下回る水準となっている。

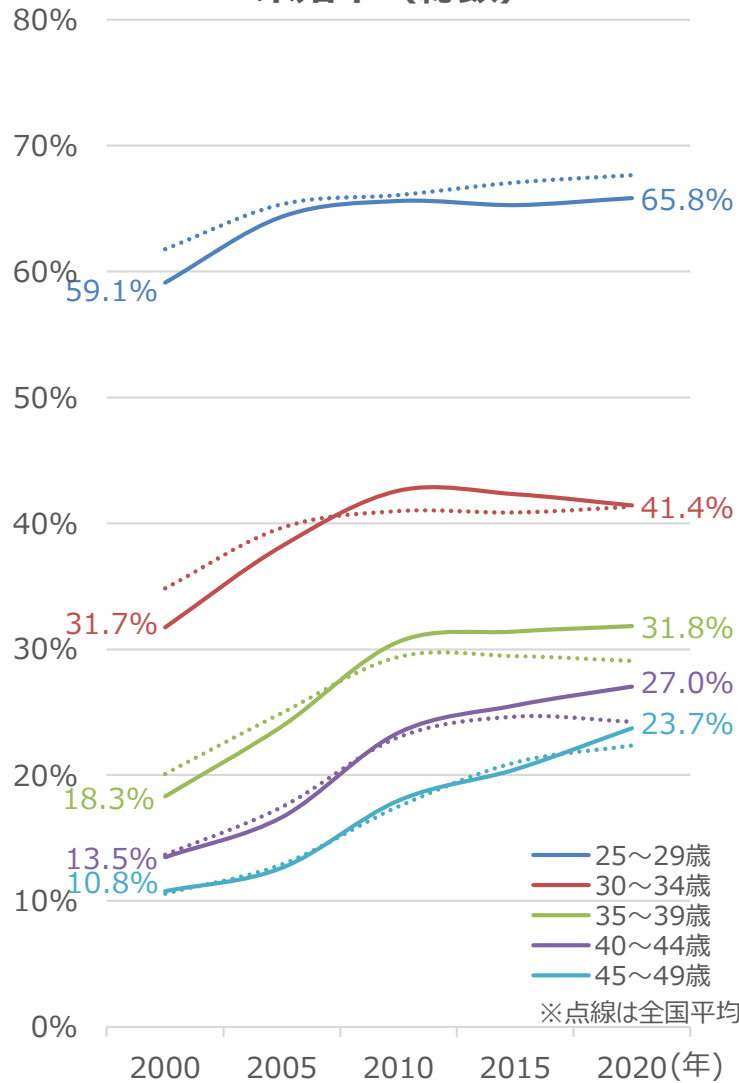
20～39歳女性1,000人あたり出生数推移



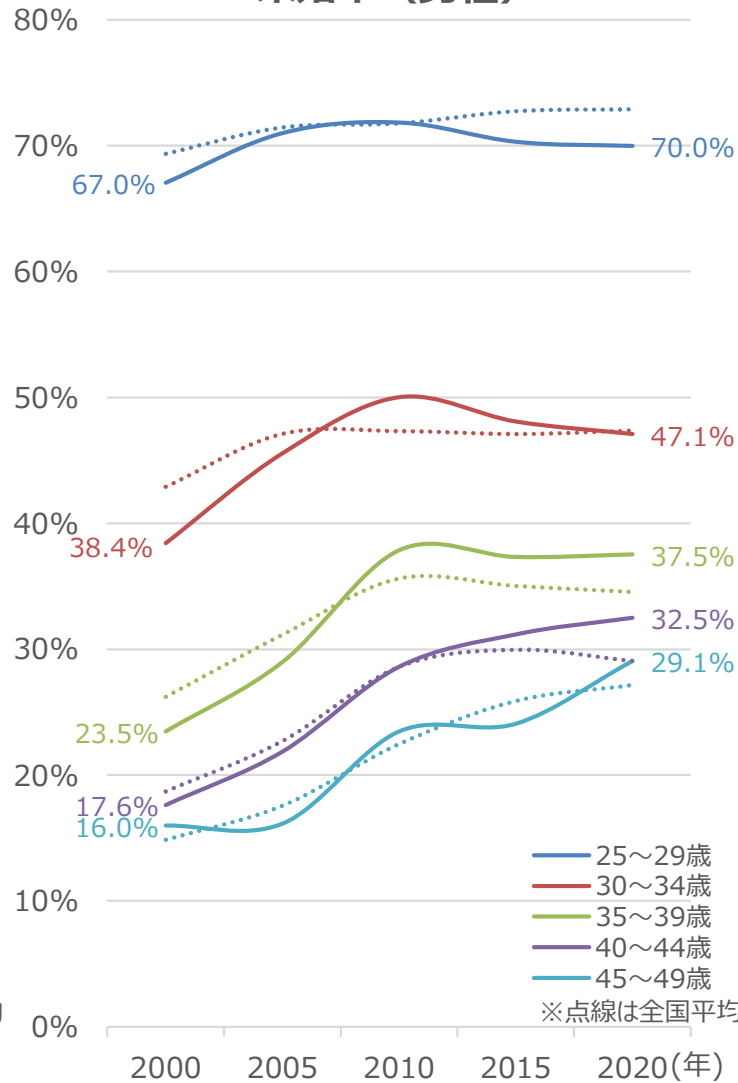
1-7. 未婚率

- 未婚率は全国的に上昇傾向にあり、女性と比べると男性の方が高い傾向がある。
- 大東市の未婚率も上昇しており、男女ともに35歳以上の未婚率は全国と比較しても高い水準になっている。

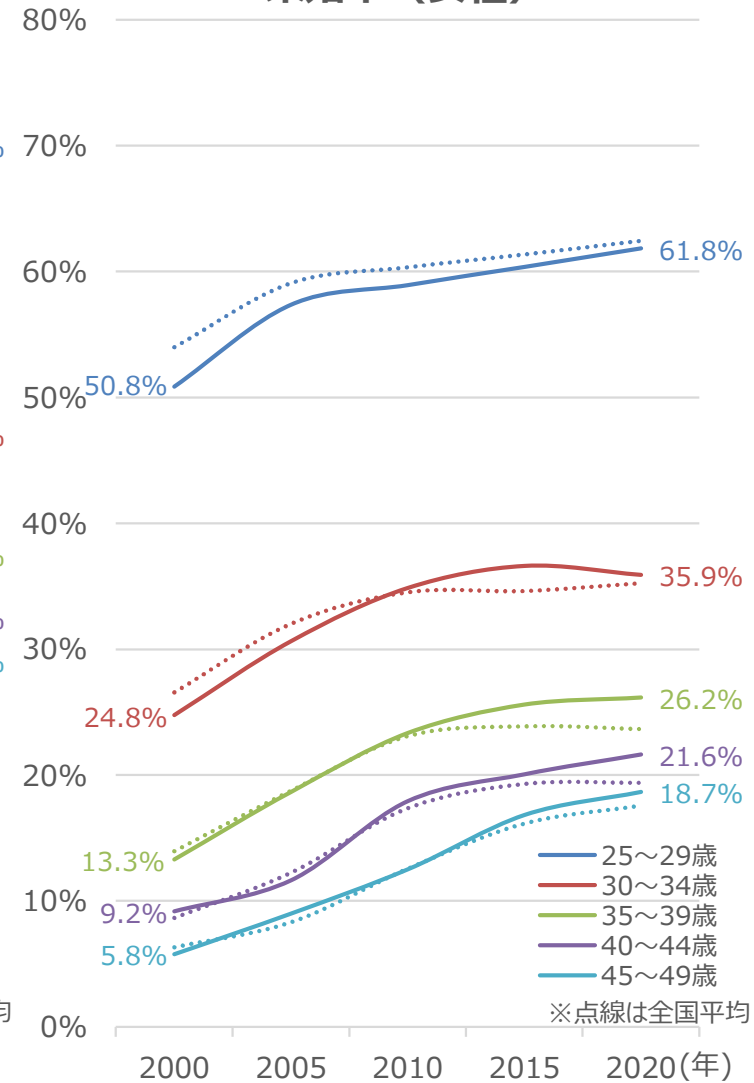
未婚率（総数）



未婚率（男性）

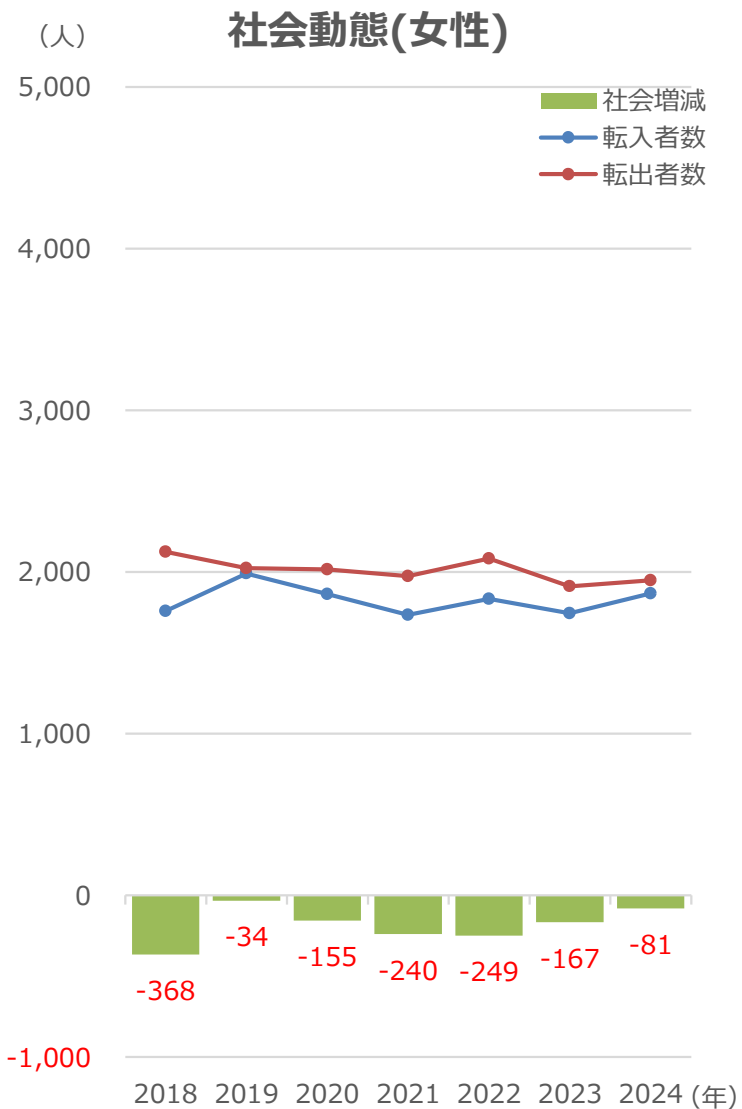
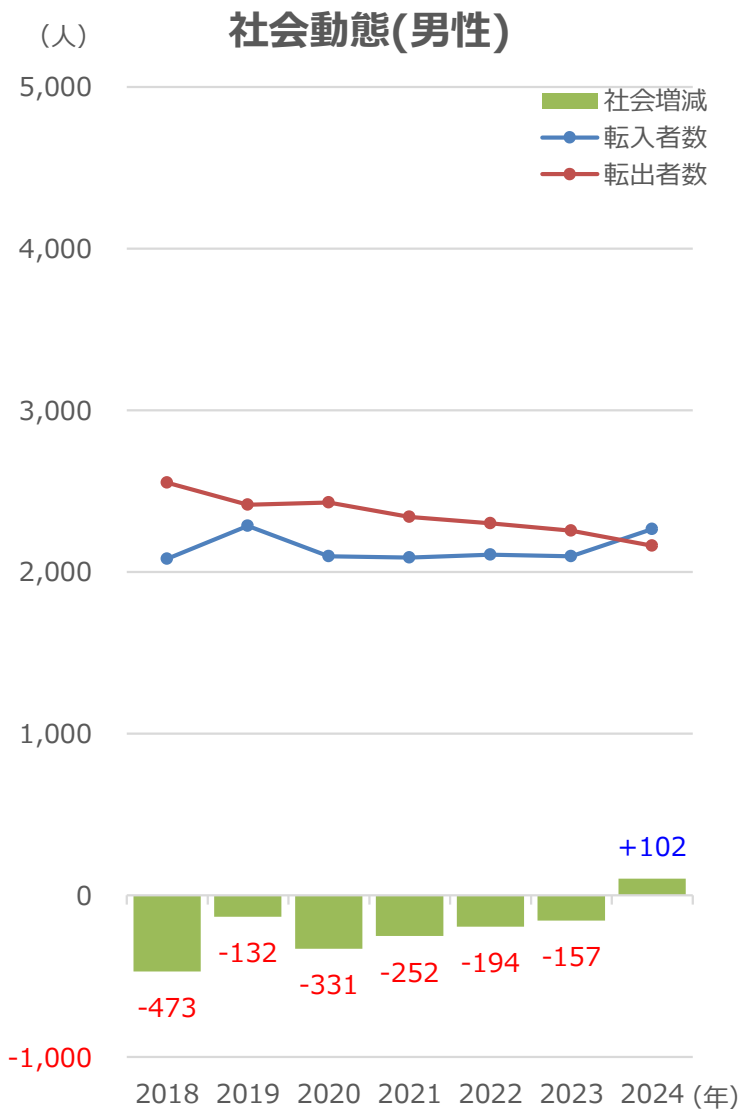
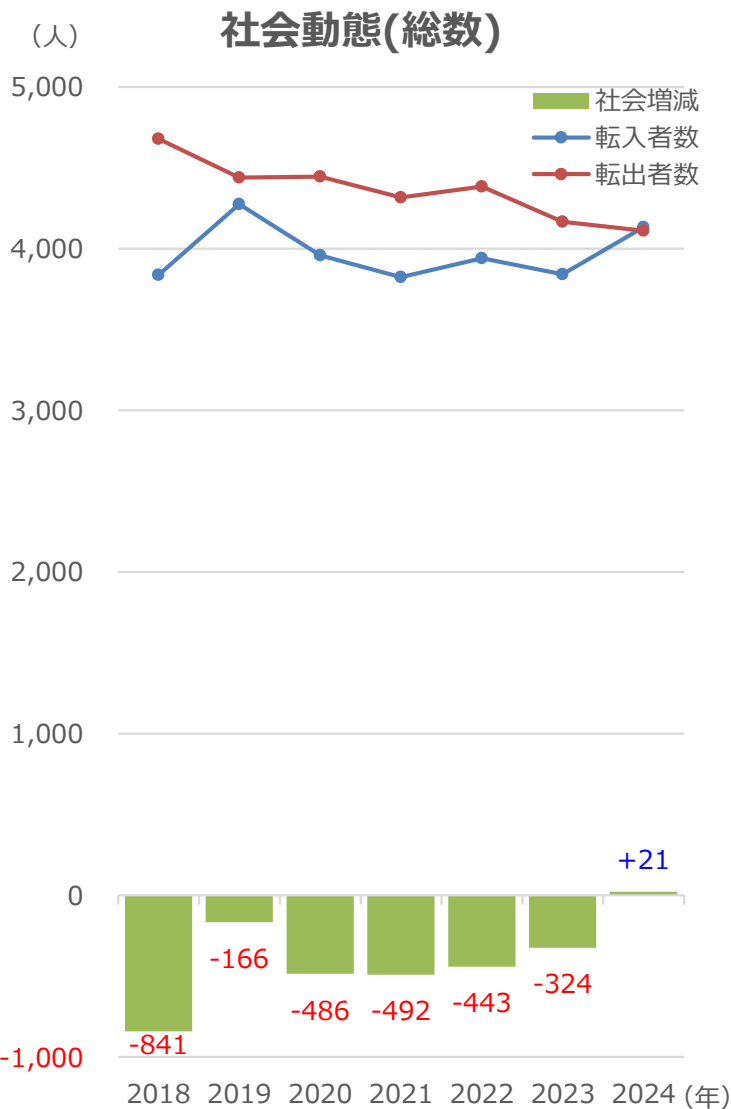


未婚率（女性）



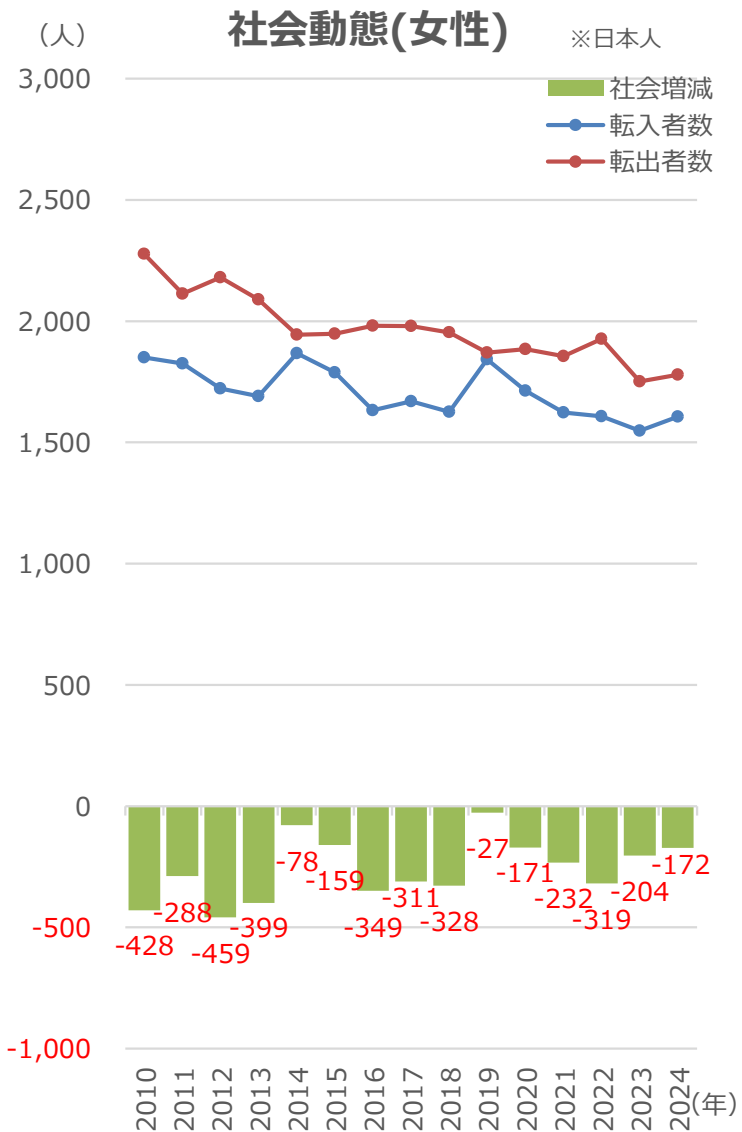
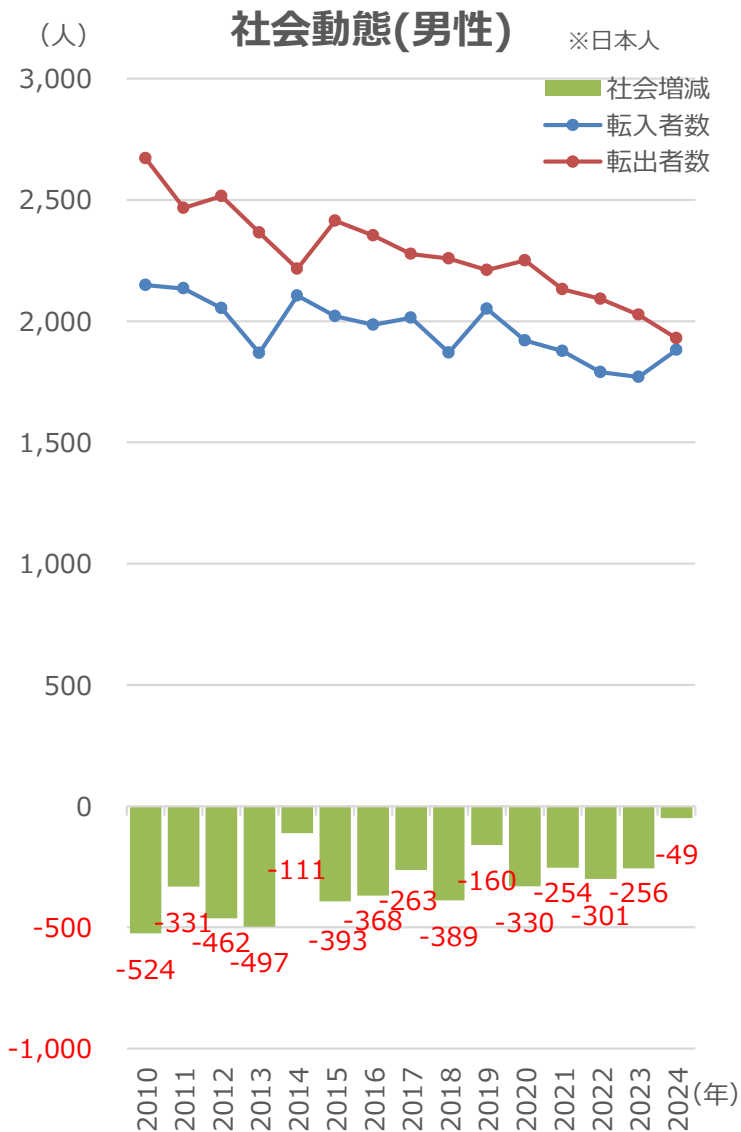
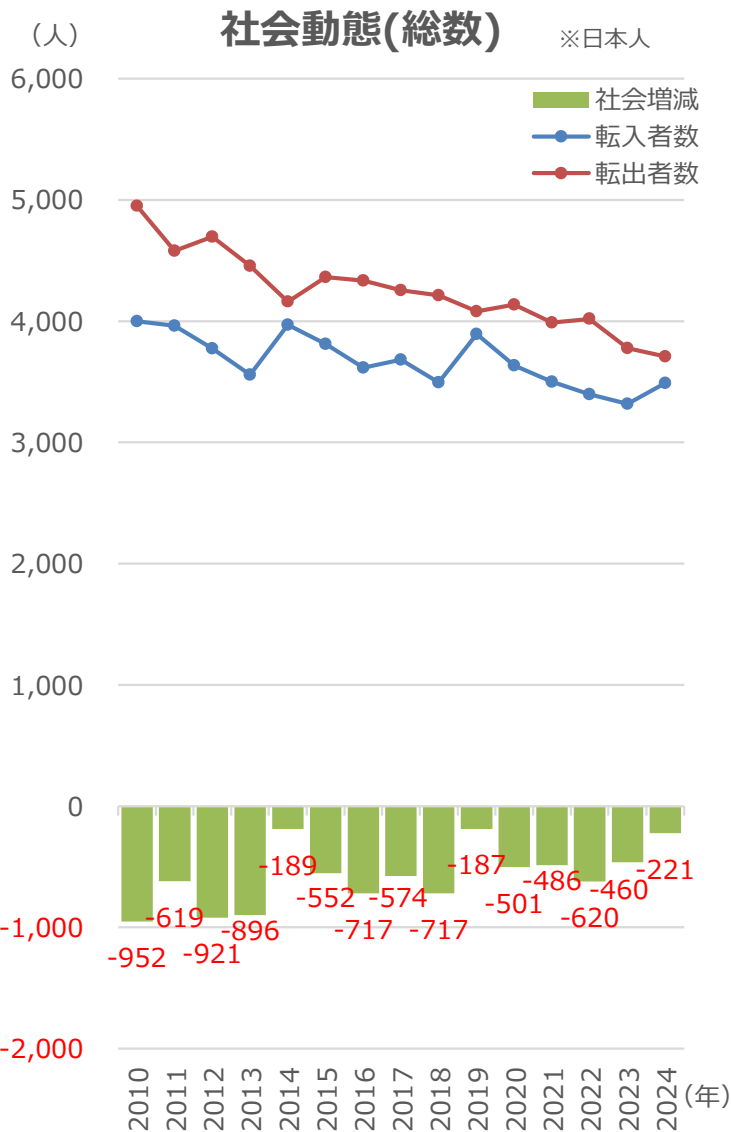
1-8. 社会動態

- 社会動態において、社会減の状態が続いていたが、2024年には社会増に転換している。
- 社会動態を男女別にみると、女性は社会減が続いており、2024年の社会増は男性の転入超過が要因となっている。



1-8. 社会動態（日本人）

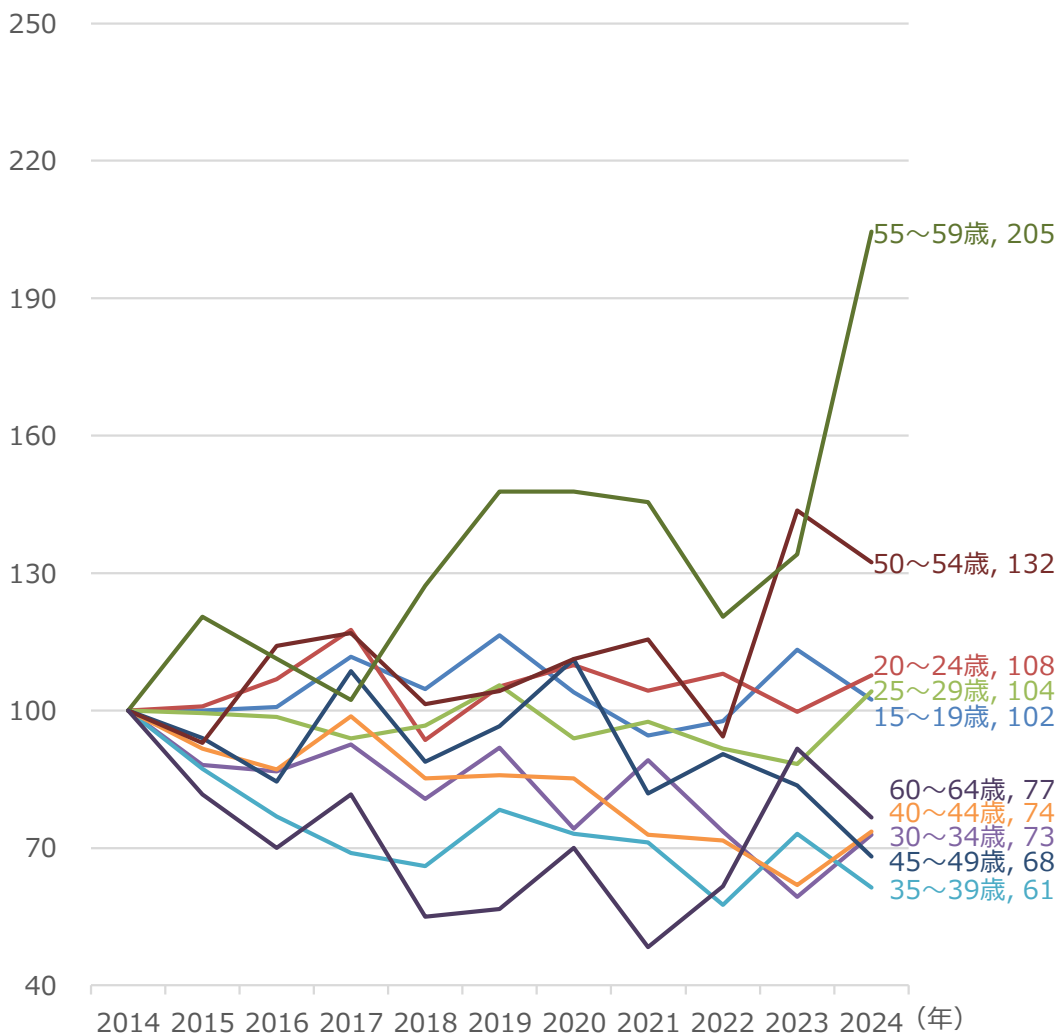
- 社会動態全体では社会増となっているが、日本人の社会動態では2010年以降社会減が継続している。
- 大東市の社会減の要因として、これまで男性の転出超過が大きかったが、近年は女性の転出超過が大きくなってきている。



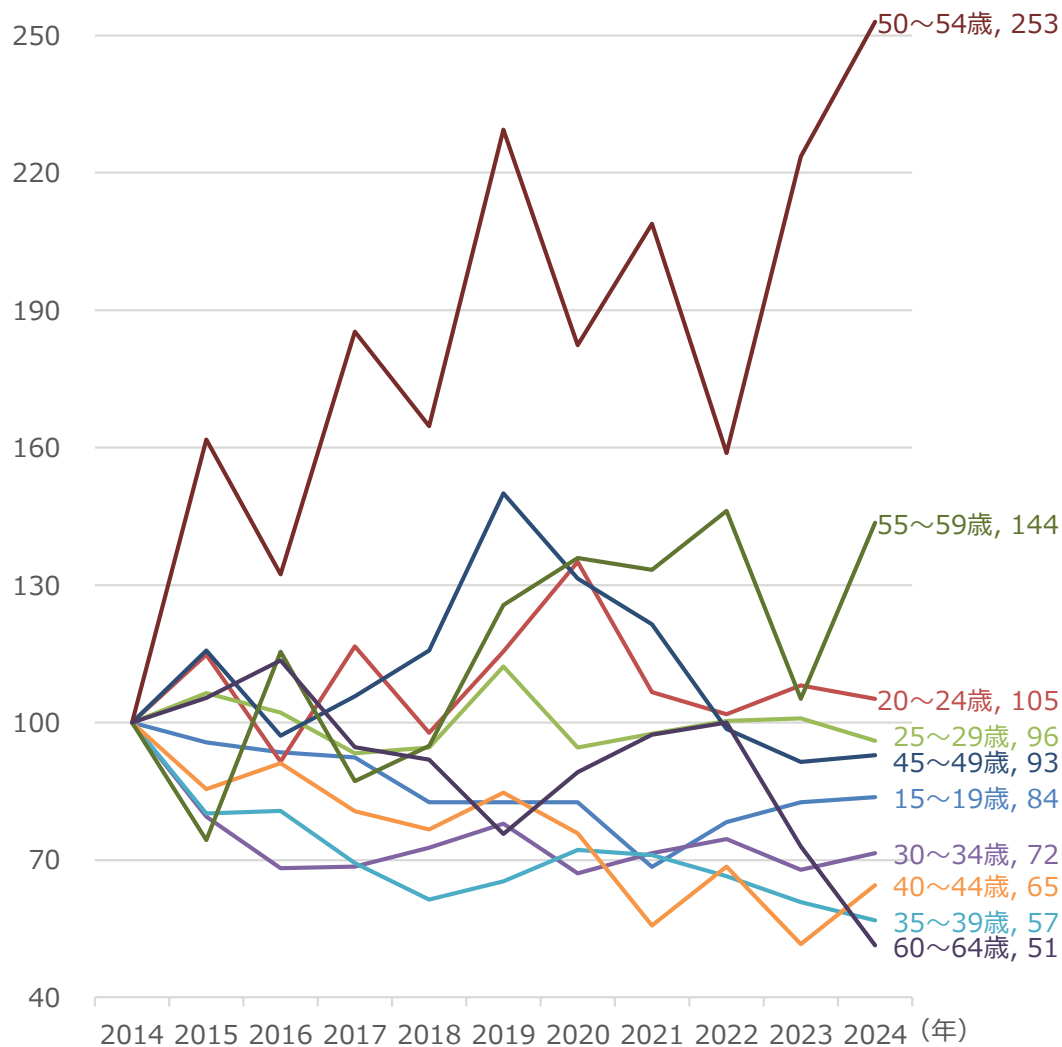
1-9. 転入者の年齢階級別推移

- 年齢別転入者数では、20歳代前半・50歳代は男女ともに増加しているが、30～40歳代は男女ともに転入者数は減少している。
- 10歳代後半は男性が微増に対して女性は減少と男女で差が出ている。

年齢別転入者数の推移：男性（2014年 = 100）



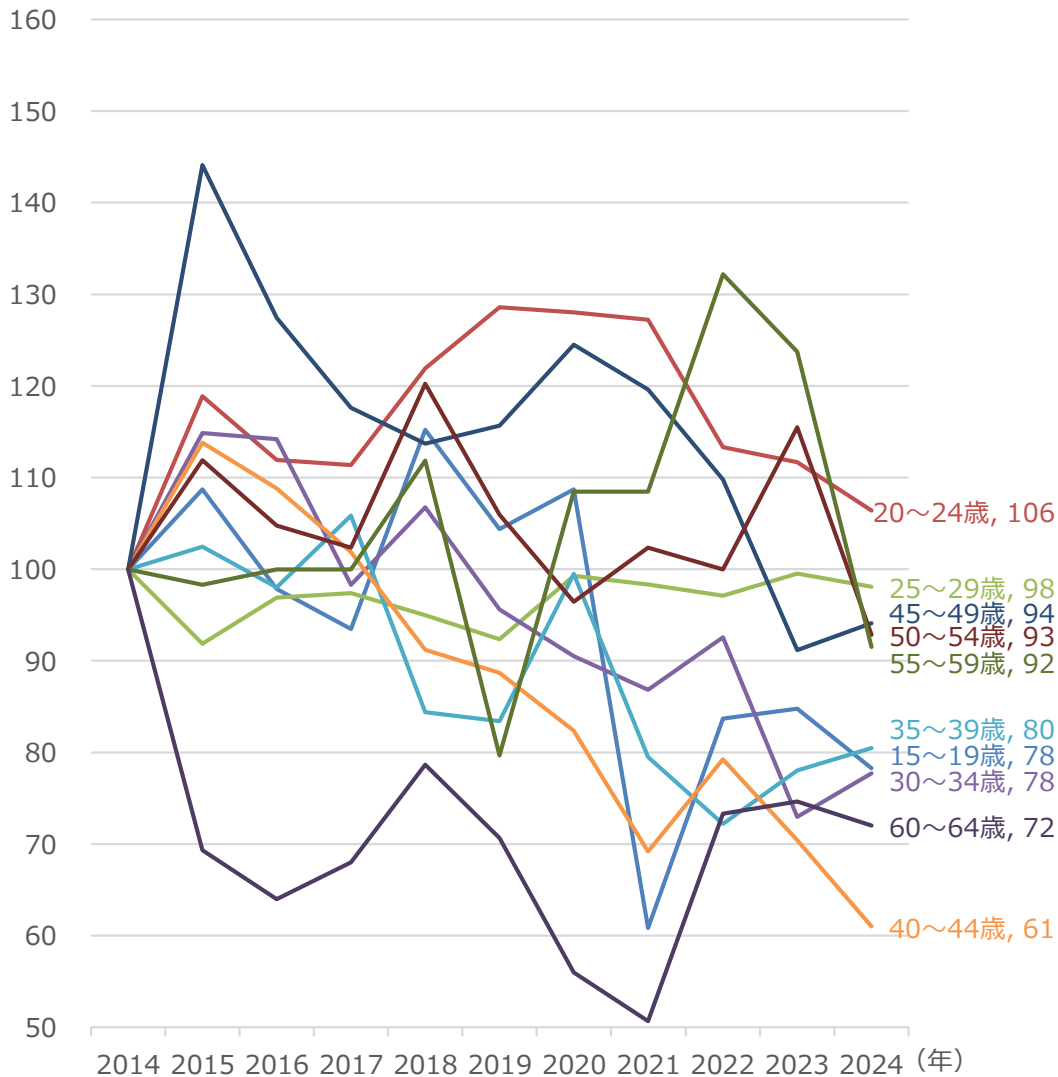
年齢別転入者数の推移：女性（2014年 = 100）



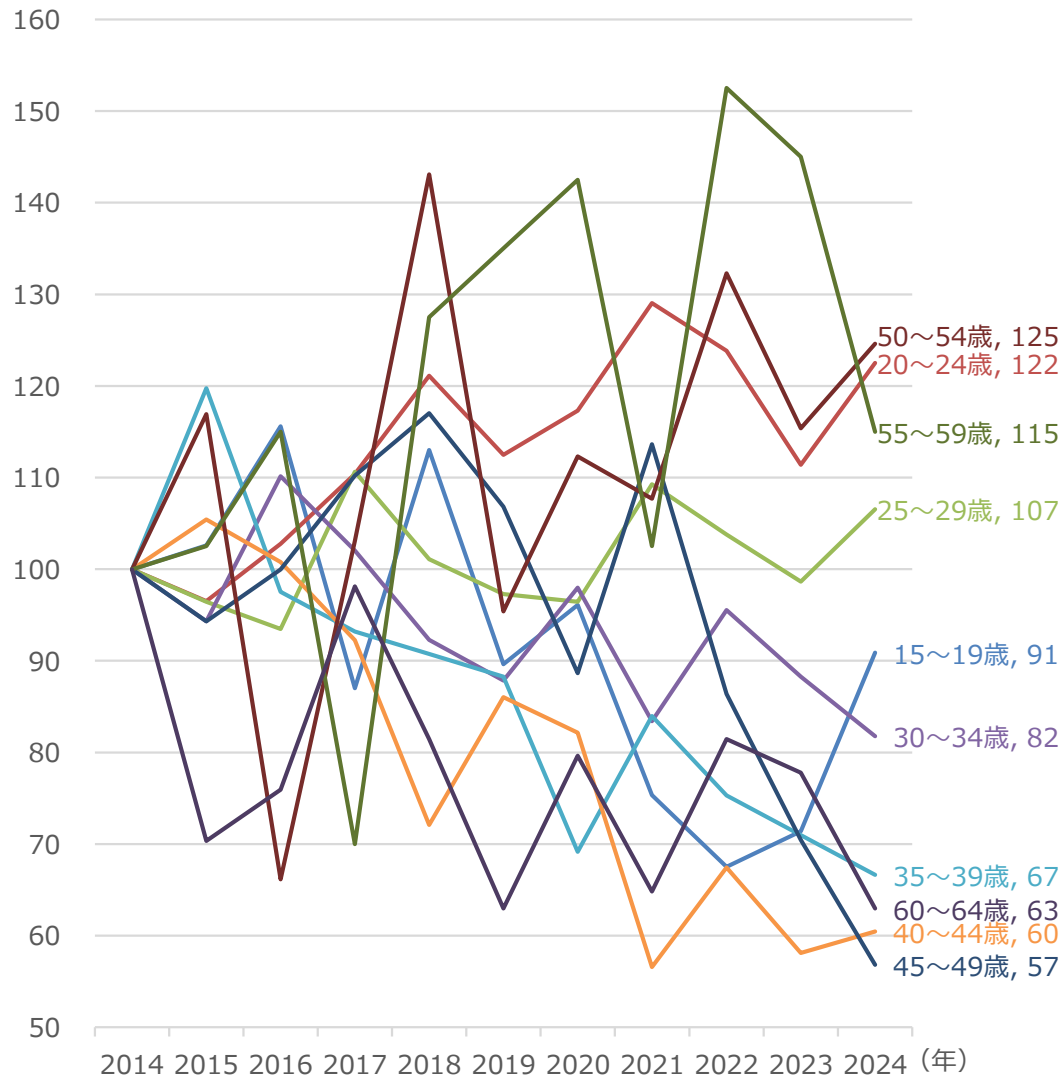
1-10. 転出者の年齢階級別推移

- 転出者数を年齢別で確認すると、男女ともに20歳代前半は増加傾向、女性は20歳代後半と50歳代も増加傾向となっている。
- 転入者と同様に30～40歳代は男女ともに転出者数は減少している。

年齢別転出者数の推移：男性（2014年 = 100）



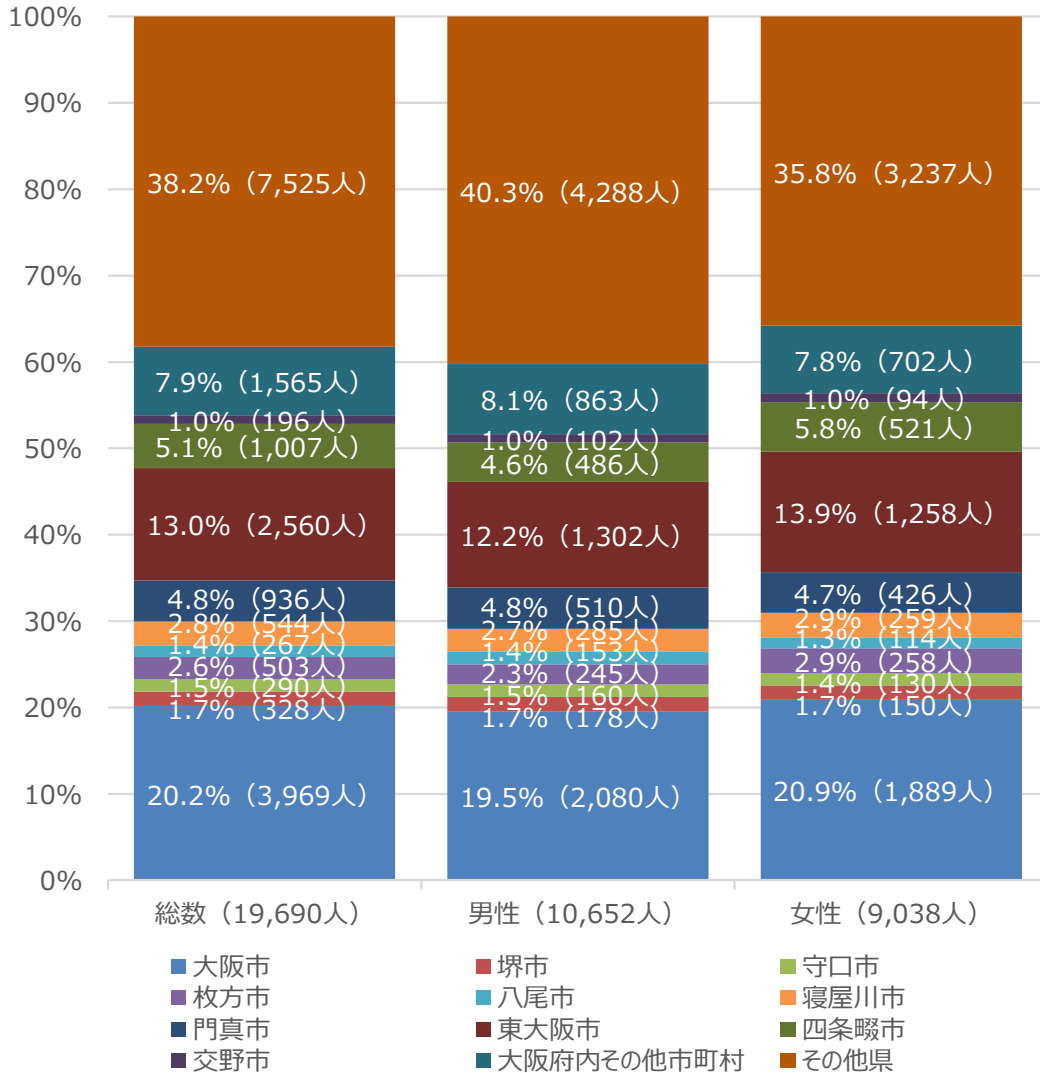
年齢別転出者数の推移：女性（2014年 = 100）



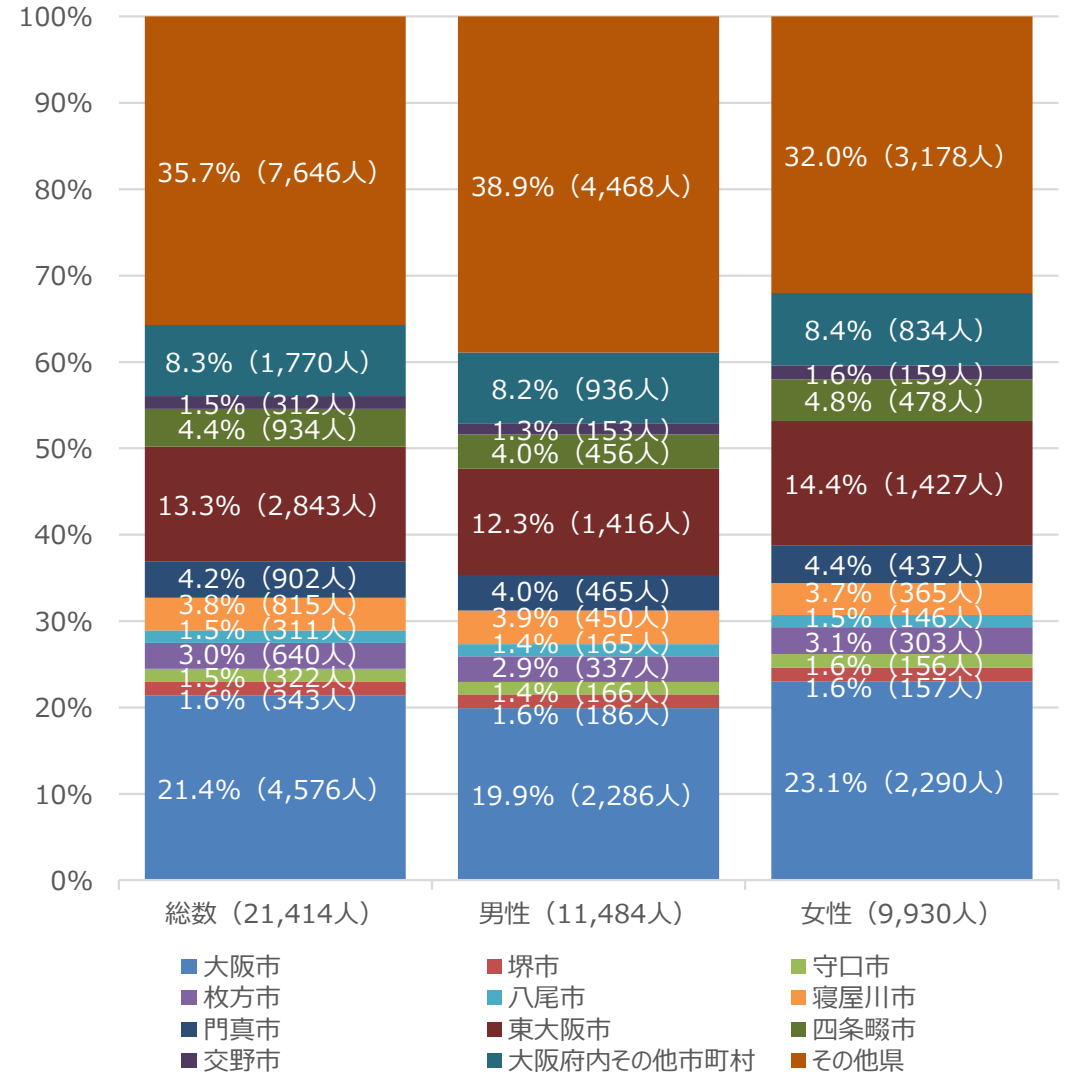
1-11. 転入者・転出者の住所地

- 大東市の転入者・転出者の住所地を2020年から2024年の5年間みると、大阪府内での移動が6割超となっている。
- 大阪府内では、大阪市・東大阪市・四條畷市の順で転入者・転出者ともに多く、比較的近隣での移動が多いことがわかる。

転入者の住所地（2020～2024年）



転出者の住所地（2020～2024年）



2. 人口ビジョン

2-1. データ分析から見える大東の特徴と課題

(1) 人口の変化

人口

- 大東市の人口は2000年をピークに2010年から減少局面に入っており、社人研によると2020年から2050年の30年間で約3万2千人減少（約27%減）すると推計。

人口構成

- 年齢別人口構成は全国や大阪府と比べても39歳以下人口の割合（特に0～9歳と30～39歳）が低くなり、70歳以上の割合は高くなると推計。

外国人

- 外国人人口は増加しており、国籍別では韓国・朝鮮国籍人口は減少傾向、ベトナム国籍人口が増加傾向。
- 2020年国勢調査における大東市の外国人住民の国籍は、中国・韓国・ベトナムの順が多い。

(2) 人口変動の三要素（出生・死亡・移動）

出生

- 出生数減少は続いており、全国・大阪府と比較しても減少幅は大きい。
- 20～39歳女性1,000人あたり出生数は、全国・大阪府を下回る水準。

死亡

- 死亡数増加は続いており、全国・大阪府と比較しても増加幅は大きい。

結婚

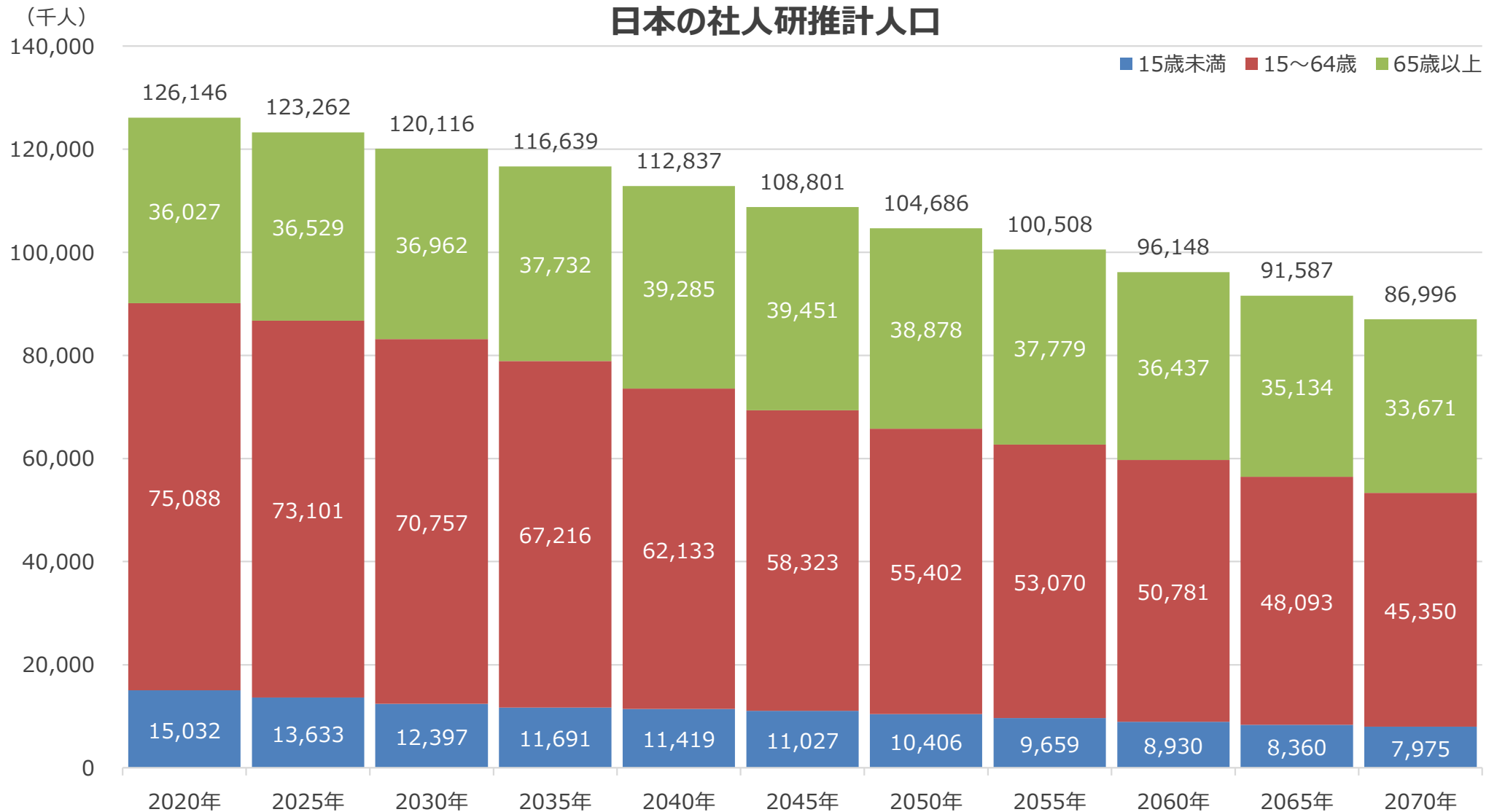
- 未婚率は上昇しており、男女ともに35歳以上の未婚率は全国と比較しても高い水準。

移動

- 外国人を含む社会動態において、社会減の状態が続いていたが、2024年には社会増に転換（女性の社会減は継続）。
- 日本人の社会動態では2010年以降社会減は継続。
- 転入者は、男女ともに20歳代前半・50歳代は増加傾向。
- 転出者は、男女ともに20歳代前半は増加傾向、女性は20歳代後半・50歳代も増加傾向。
- 移動の住所地は大阪府内の移動が多く、大阪府内でも転入者・転出者ともに大阪市・東大阪市・四條畷市の順が多い。

2-2. 日本の将来推計人口

- 社人研における日本の推計人口は、「2070年合計特殊出生率1.37」、「外国人入国超過数年間約16万人」など、現状よりも高い出生率や継続的な外国人住民の増加が前提として推計されている。
- その前提の中でも人口減少は進行し、2020年から2070年にかけて約4,000万人減少（約31%減）すると推計される。



2-3. めざす将来の方向性

(1) めざす将来の姿

定住促進による人口の維持

(社人研の推計人口を下回らない人口の維持)

人口規模の縮小と人口構成の変化を前提としつつ、その中で安全・安心を確立し、大東ならではの付加価値を高めるまちづくりを行うことで、市民の定住意欲を高め、人口減少を緩やかにしていく

(2) めざす将来の姿を実現させるために

大東ならではの人や資源、組織、仕組み等を活用した以下の施策を実行

① **暮らしの質の向上**に資する施策

② **まちの活力の維持・発展**に資する施策

③ **財政力の向上と資源の最適化**に資する施策

×

④ **大東への理解・共感と知名度の向上**につながる**効果的なプロモーション**

2-4. 大東市人口ビジョン

- 大東市の人口ビジョンとして、「社人研の推計人口を下回らない人口の維持」を設定する。
- 人口ビジョンの実現に向けて、総合戦略における重点分野で設定した取組を推進する。

大東市の社人研推計人口

